

古代の渦紋（3）

～弥生時代に見る渦紋～

全くもって「唐突」ですが、「渦紋マニア」？を自称する管理人が古代遺物に見る渦紋を紹介します。

ただただ「(*-_-)ふ～ん」と眺めて頂ければ幸いです（笑）

がい えん つき ちゅう しき どう たく
外縁付鈕 2 式銅鐸

J-802

み え けん すず か し い そ や ま ち ょ う
三重県鈴鹿市磯山町出土 | 弥生時代(中期)・前 2 ～前 1 世紀
青銅製



@東京国立博物館



連続渦紋の書き方による双頭渦紋

当時の人々の目には妖しく映ったのでは？

一方通行？渦紋の書き方による双頭渦紋



本銅鐸の身の区間内には、魚をついばむ鳥や
イノシシを狩る様子など生活の風景が描かれて
います。杵で臼をつく人物や梯子が掛けられた
高床建物の表現より、銅鐸は農耕祭祀と深い関
わりをもった祭器であると考えられています。

@東京国立博物館



教科書にもよく載っている有名な銅鐸、鈕には連続渦紋
連続渦紋は「一筆書き」です（前頁の下手図参照）

本銅鐸は弥生時代後期の集落跡から土木工
事中に偶然発見されました。掘削によって一方
の身と鍔の一部が損なわれたことと、他方の内
側へのみ砂土が付着することから、鍔を上下に
して埋納されていたと考えられています。集落
から銅鐸が発見された極めて貴重な例です。

@東京国立博物館

鈕に見られる双頭渦紋



旋帯文石（複製） 岡山県 楯築遺跡

実物は楯築遺跡の収蔵庫（窓から見える）にあります



旋帯文石

（複製品）
重要文化財
倉敷市 楯築遺跡
弥生時代後期
原品：楯築神社
岡山県立博物館蔵

上面と各側面に、帯が渦巻き交差する弧帯文と呼ばれる文様が彫り込まれており、弧帯文石とも呼ばれる。側面の1ヶ所には顔の表現があり、神の顔と考えられる。また、下面は製作途中にとどめた状態である。

この遺跡で行われた葬送の儀式に用いられた遺物である。

江戸時代に出土し、楯築墳丘墓に所在する楯築神社の御神体として祀られている。

Sculpted rock with intersecting arcs (Reproduction)
National important cultural property
Tatetsuki Mound
Kurashiki City
2nd century

@岡山県立博物館



「渦」ではありませんが類例を見ない独特な紋です